

年 組 名前

2021年1月5日付 社会科 / 中学校2年



明智光秀の肖像画

古文書に家臣の証言

織田信長が配下の明智光秀に討たれた本能寺の変（一五八二年）を巡り、光秀が本能寺（京都市中京区）の現場に居合わせていなかったとする学説が出てきた。金沢市に現存する古文書に、光秀は本能寺から八き離れた鳥羽（京都市南部）に控えていたとの家臣の証言があることが富山市郷土博物館の萩原大輔主査学芸員（日本中世史）の調査で判明した。

映画やドラマでは光秀本人が軍を率いて本能寺に向かったように描かれるが、明確に裏付ける史料はないという。

萩原主査学芸員によると、古文書は金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵の「乙夜之書物」。加賀藩の兵学者関屋政春が本能寺の変から八十七年後の江戸時代に記した。本能寺を襲った光秀軍を率いとされる斎藤利三の三男で、自らも従軍した利宗が、加賀藩士のおいに語った証言として「光秀ハ鳥羽ニヒカエタリ」と記されていた。

古文書には光秀軍の兵士たちが京都市の桂川の河原で夜中に休憩を取っていた際に、本能寺へ向かうことを初めて告げられたことや、襲撃された信長が乱れ髪で白い帷子かたびらを着て光秀軍を迎え撃った様子の記述もあった。

萩原主査学芸員は「事件に参加し重要情報に触れる立場の人物の話で、後世の加筆の跡も見られないため、信頼性は高いと考えられる」と指摘。本能寺にいた信長側の家臣は数が少なく、光秀の本隊が向うく必要はなかったと分析した。研究をまとめた論文を近く発表する。

光秀 本能寺行かなかった？

問1 古文書にはどんなことが書かれていたか、まとめましょう。

① 光秀は本能寺から八き離れた（ ）に控えていた。

② 兵士たちは京都市の桂川の河原で、（ ）へ向かうことを初めて告げられた。

③ 襲撃された（ ）は、

乱れ髪で白い帷子を着て光秀軍を迎え撃った。

問2 学芸員は、光秀が本能寺に行かなかった理由を、どう分析していますか。

Answer box for Question 2